

第5回 周南市市民憲章等検討委員会 会議録

日 時 平成17年11月29日(火) 午前10時から午前12時まで

場 所 周南市役所 3階 第4会議室

出席者 12名

・委員 8名

杉光 英俊(会長)、隅 麗子(副会長)、小田 敏雄、谷野 正昭、友森 淑子、
西本 恵三、藤井 貞臣、山本 勝一

・事務局 4名

住田企画課長、原田係長、有馬、青木

会 議 内 容

1 議 題

(1) 前回議事録の確認

- ・前回会議録の確認を行い、了承された。

会長

- ・既に4項目は委員会案が完成しているが、できれば本日、委員会としての原案を完成させたいと思っている。それに対応する色々な市の市民憲章を並べてもらっているので、それについて事務局から説明をお願いしたい。

(2) 委員会案4案に対する再検討事項

事務局(資料1を基に説明)

- ・前回まで、4つの案が委員会案として決定されたが、それに対して事務局内部で検討した点について幾つかコメントさせていただきたい。

(環境・自然)の分野で、この市民憲章を作るに当たり、市民の皆様から「市民憲章に入れて欲しい言葉や意見」を募集したところ、川や海等の水資源に関する意見もあった。よって、山や水等、そういう自然に関する表現も入れていただけたらと思う。

(勤労・産業・経済)の分野の“勤労に励み”という表現で、前回会長さんからも指摘があったように、勤労という言葉の中に既に「労働に励む」とか「仕事に励む」という意味合いが含まれている。“勤労に励む”という表現は二重言葉というかダブっているということになり、日本語の表現として適切でないので、この部分を見直していただきたい。

(健康・スポーツ)の分野で、スポーツと家庭がどうも結びつかないのではないかという気がする。まちであれば結構だと思うが、逆に“まちをつくります”という表現に捉われてしまうと、つながりがつきにくいのではないかという気がする。

- ・そういう点を含めて他市の事例を4～5点ずつ挙げているので、参考程度に見ていただき検討していただきたいと思う。
- ・また、(国際)及び(伝統・文化・教育)に関しても、他市の事例を挙げているので、審議の参考にしていただきたいと思う。

会長

- ・我々は一つ一つの文案を検討してきたが、全体として事務局の方で他市の例を挙げていった結果、今言われたような点があった。それを参考にしながら最終案に向けて検討したいと思う。
- ・先に事務局の言われた点を検討していくか、それとも前回の宿題とした案を検討していくかについてはどういたしますか。

委員F

- ・まだ本文が完成していないので、前回の続きからの方が良いと思う。

【項目:(国際)の検討】

会 長

- ・では(伝統・文化・教育)と(国際)の分野で、一つは前4項目の中のどれかに(国際)という言葉を取り入れて、新たに(国際)という項目を設けないという意見と、もう一つは(国際)という項目を新たに設けるという意見に分かれている。
- ・しかし、(国際)という項目を新たに作るという点では、新たな案がないというのが実情なので、皆さんの中で、何か良い案があればお願いしたい。

委員F

- ・この前から考えてはいるが、中々良い案が浮かばないが「世界に目を開き、国際理解を深めます」という案である。

委員T

- ・「世界に目を開き、教養を高め、若い力が育つまちをつくります」という案が一つ。
- ・もう一つが「自らが輝き、世界に誇れるまちをつくります」という別のイメージで作ってみた。これからどういう風に皆さんとやっていこうかという部分で、お年寄りから若い人までを対象とした時に、上手くつながらないというところで苦労している。

会長

- ・私も自分で(国際)を入れたいと言ってはみたものの、中々良い案が浮かばずにいるが、「世界に目を開き、人と文化がふれあうまちをつくります」という案をあげておく。

委員T(友森)

- ・“世界に誇れる”という部分では、周南市挙げて何かをしなければならないというプレッシャーを感じてしまう。しかし、文面としては、若い力だけではなくてお年寄りも含めた点で、何にでも通用し、大きく捉えてあってすごく良いと思う。

委員 N

- ・“世界に誇れるまちをつくります”というフレーズは、これで市民憲章の文が終わるとすれば、最後の締め言葉としては、すごく良いし格好良いと思う。

委員 T (友森)

- ・市民憲章を唱和してこの文章が最後だと格好良いし、今までは協力とかという言葉が多かった中で、これは自分が自分を磨かなければならないという点をすごくわかっている気がして良いと感じる。

会 長

- ・これは非常に感動的な良いフレーズだと思し、国際理解という言葉もわかりやすく良いですね。

委員 Y

- ・中々、世界に誇れるまちは作れない気がする。まだ“世界に目を開き”とか“異文化に学び”という程度に抑えておいた方が無難な感じする。

委員 T (友森)

- ・スポーツでも文化でも産業でも何か一つでも周南市が世界にアピール出来るものがあればと思う。

委員 T

- ・全てでなくて一つでも何か特化したものがあればと思う。

委員 T (友森)

- ・国際理解という面では、今、世界中で色々な出来事があってニュースで流れているが「そんなものか」で終わるのではなくて、そこがどうなのかという踏み込んだ部分で、お年寄りから子供までがキチンと理解できるような市であって欲しいと思う。

会 長

- ・そういうことがキチンと出来ればきっと世界に誇れるまちに違いない。だから、あまり卑下しないで頑張っていけば問題ないと思う。

委員 N

- ・順番はまだ決まっていないが、最後の締め括りとしての文章であれば、自分のステージが一段上がったような、志が高くなったような気がする良いフレーズだと思う。

委員 T

- ・“世界に誇れる”と言うと国際感覚を身に付けるとか、そういうもの全てが含まれるという気がする。当初は「教養を高め、若い力を育て、世界に誇れるまちをつくります」にしようと思ったのだが。

会 長

- ・ただこれからはシニアの力も伸ばさなければならない時代なので、“若い力”に特定しない方が良いと思う。

委員 T (友森)

- ・福祉や健康・スポーツ等、どこの市でも同じような似たり寄ったりの文章なので、周南市も色々な都市と姉妹提携を結んでいたりする関係からすると、この国際とい

うのは他の市には見られない、尚且つ周南市をアピール出来るものであれば良いと思う。

委員 F

・少し話がそれるが、国際と言うと良い面ばかりが言われている気がする。宗教も絡んでくるが人権問題がおざなりになっており、経済の関係ばかりが前面に出てきている。人間としての資質を高める上での、もっと国際という面で、少しばかりかけ離れている気がする。

会 長

・国際理解とは、人種や宗教等、そういった面を含んだ交流という意味合いなので、広い意味では含まれるのではないか。

委員 O

・私は最初の修正案「世界に目を開き、教養を高め、伸びゆくまちをつくります」という案の方が、国際とか世界に誇れるまちをつくるという大上段に構えた案よりは良い気がする。

委員 F

・教養となると（伝統・文化・教育）の項目に入ってしまうので、一緒にするのかどうするのかという問題がある。（伝統・文化・教育）の項目を先に検討してつながるのであれば、一つにするという方法を考えないと、まとまりがつかないのではないか。

会 長

・確かにそうです。では（伝統・文化・教育）を先に検討しましょう。何か良い原案があればお願いしたい。

委員 F

・私は修正案を基に「教養を深め、若い力を育て伸びゆくまちをつくります」と考えた。前回、教養を“高め”という部分が話題になり、また、他市の文にも“深め”とあるので、“教養を深め”とした。

委員 T

・今の案は今までの全ての言葉が含まれていて良いように思う。

会 長

・私も「スポーツや文化に親しみ、笑顔がふれあうまちをつくります」と「スポーツや文化に親しみ、健康で明るいまちをつくります」を提案する。これは（健康・スポーツ）と（伝統・文化・教育）を一緒にした型で、こうすることによって（国際）を何とか入れたいという私の思いである。

委員 T（友森）

・あっちこっちに色々な鍵があって、どこにどれをくっつけるかとても難しい。

会 長

・では、事務局提案の案を検討後、またこの項目を審議することにしたい。
・それでは（環境・自然）の項目に戻り、検討したいと思う。

【項目：(環境・自然)の再検討】

会 長

- ・“花と緑の”という部分に、市民の意見を取り入れた水というものも含めた案を考えたかどうかということだが、一番簡単な修正は「自然を愛し、水と緑の美しいまちをつくります」という案になるが、いかがでしょうか。

委員T(友森)

- ・緑の中に花も入っている気がするし、また、水がなければ花も緑も育たない。

会 長

- ・“水と緑”の方が広い意味でバラエティーに富んでいると言えると思う。ただ、ここで言う水というのが、津和野のような町中を流れている水なのかどうなのかかわからないが、周南市で言えば、海とか川が該当すると思う。そういう思いを込めて水という表現に修正するという原案はいかがでしょうか。

委員T(友森)

- ・工場も水がなければ成り立たないと思うので、水は必要だと思う。

委員N

- ・私は以前から、海や川を入れたいとは思っていたが、海や川に限定するのは難しいと思うので、まとめて水という言葉で表現する方が良いのかなという気がする。

委員T

- ・ただ、広い意味で言えば、自然の中に海や山や川というものが含まれているような気がしてならないのだが。

会 長

- ・意味が大きく違うのは、花と言うと“花を植えていく、花を植えて美しいまちを作っていく”ということで、水と言うと“川を綺麗にする”とか“海を汚さない”とかそういう意味になる。まちに花を植えて綺麗にしていくのか、それとも、水の美しさを保っていくのかという点がポイントとして違うと思う。

委員O

- ・水というと海も川も全て入り、全ての自然は水が全てであり、特に日本人にとって水と安全はタダと思っている程、馴染み深いので、花よりは水の方が良いと思う。

会 長

- ・水が美しいということは、全てに通じると思うのだが。

委員T

- ・旧新南陽時代のサルビアの鮮やかな赤のイメージが強く、花も中々捨て難い。しかし、新しい市の市民憲章であり新しいキーワードとして水を取り上げたということで良いかもしれない。

会 長

- ・それでは、“花と緑”を“水と緑”に修正したものを委員会案としたいと思う。

(環境・自然)

自然を愛し、水と緑の美しいまちをつくれます。

を委員会修正案とした。

【項目：(福祉)の再検討】

会 長

・次の(福祉)のカテゴリーで「互いに助け合い 安心して暮らせるまちをつくれます」という案文について検討したい。この案文の“互いに助け合い”の部分に関してはいかがでしょうか。

委員N

・小学生が読む場合には、“互いに”を“みんなで”に変えた方が読み易いし、イメージが浮かぶような気がする。

委員T

・“互いに”の部分はそのままで子供に説明できるが“安心して暮らせる”という部分は、色々なことが含まれていて、言葉としては非常に良いが説明しづらいかなという気がする。

委員T(友森)

・今、色々な事件が身近で起こっている現状では、安心というのは理想であって現実ではない気がする。

会 長

・“安心して暮らせる”という表現は“互いに助け合い”という文が前にあってピッタリくる文であり、“みんなで支え合い”という文では少し難しくなってくる。

委員T

・確かに語呂としてはこれがピッタリ来る。特に変更する必要はないのではないかな。

会 長

・事務局からこの案に関しての提案は特になかったようなので、後は“互いに”を“みんなで”にするかどうか位だろうと思う。

委員T(友森)

・子供でもわかり易いのは“みんなで”という表現である。

委員O

・唱和するには“みんなで”の方が語呂的に言い易い気がする。

会 長

・他に意見がなければ、“互いに”を“みんなで”に修正したいと思う。

(福祉)

みんなで助け合い、安心して暮らせるまちをつくれます。

を委員会修正案とした。

【項目：(勤労・産業・経済) の再検討】

会 長

- ・次の(勤労・産業・経済) の“ 勤労に励み ” という表現を変えろという事務局提案に関して意見を欲しい。

委員 T

- ・言葉としては“ 勤労 ” ではなくて“ 仕事 ” が正しいということですね。

会 長

- ・このまま活かせば“ 仕事に励み ” となるが、言葉としては少し面白くない。

委員 T

- ・まだ“ 楽しく働き ” とか“ 元気で働き ” の方が明るいイメージで良い。“ 仕事に励み ” というのはイメージ的に暗い。

会 長

- ・何か炭鉱のまちのような印象を受ける。

委員 T (友森)

- ・“ 楽しく働き ” の方が子供達にもわかり易いように思う。

委員 O

- ・“ 元気に働き ” の方がむしろ良いのではないか。

委員 T (友森)

- ・“ 働くよるこび ” や“ たのしく働き ” よりも“ 元気で働き ” の方がしっくりくる気がする。

会 長

- ・わかりました。“ 元気で ” と言うと健康でという意味で、“ 元気に ” と言うと活力を持って意欲を持ってという意味があるので、“ 勤労に励み ” を“ 元気に働き ” という表現に修正したいと思う。

(勤労・産業・経済)

元気に働き、豊かで活力のあるまちをつくります。

を委員会修正案とした。

【項目：(健康・スポーツ) の再検討】

会 長

- ・(健康・スポーツ) の項目で、家庭とスポーツが結びつかず、“ まちをつくります ” という今までの流れの中で浮いているのではないかという事務局の提案である。

委員 F

- ・私は前回、括りの部分で“ まちをつくります ” という表現で統一するのかどうなのか確認したが、それはまだ固定せずに話し合うということだったが、“ まちをつくります ” という括りに決定するという事なのか。

会 長

- ・確かに前回までは、括りの部分を固定せずに話を進めてきた。しかし、事務局が全体を眺めた結果、家庭という言葉に違和感があるとの提案で、もう一度考えてみようという議長提案である。
- ・最後の文くらいは“家庭”でも良いのではないかという意見があったので、あえて家庭という言葉を入れようと思っていたが、全体を読んだ時に中々理解されない、異質なものが入ってきたという思いは確かにある。

委員 T

- ・家庭というのは全ての基礎であるから、今回は原点に帰ろうという思いがあったのであろう。

会 長

- ・“家庭”を“まち”に変えるという案はいかがだろう。

委員 T

- ・全体を揃えるという意味では、その方がわかり易い。

委員 O

- ・家庭の集合体がまちであるから。

会 長

- ・では“家庭”を“まち”に変えるということによろしいか。

(健康・スポーツ)

スポーツに親しみ、健康で明るいまちをつくります。

を委員会修正案とした。

【項目：(国際)の検討再開】

会 長

- ・以上で4つの原案が決定した。5つ目をどうするかという問題になるが、5つ目を(国際)にして(健康・スポーツ)と(伝統・文化・教育)を一緒にするか、または、(国際)をやめて(伝統・文化・教育)で1つ作るかということになる。
- ・資料を見ると(健康・スポーツ)と(伝統・文化・教育)を1つにまとめても問題はなさそうな気がするし、むしろ(国際)という項目は、今まで入ってきていないが、皆さんどうお考えか。

委員 F

- ・この中で(国際)という項目だけが一つの分野で、他の分野は幅広く色々な分野を含んでいる。後から皆さんに内容を説明する際に(国際)だけで説明するのか。その辺りが心配である。

委員 T

- ・今まで出て来たものは、国際的な視野を持って色々考えていこうという意味合いが強かったように思う。この(国際)だけが突出した型になっており、この分野だけ

で市民に訴える部分はほとんどないし、難しいと思う。

- ・(国際)というのは(スポーツ)の中に取り入れても(伝統・文化・教育)の中に取り入れても問題はなく、違和感もないような気がする。

委員O

- ・「教養を高め、世界に目を開き、若い力が育つまちをつくります」か「世界に目を開き、教養文化を高め、伸びゆくまちをつくります」という修正案を基礎に考えれば(伝統・文化・教育)と(国際)が一緒になり、全ての項目を網羅するのではないか。

会 長

- ・“世界に誇れるまちをつくります”という一文を私は入れたいと思っている。このフレーズは、世界に誇れるようなまちづくりを宣言したまちはないということで、よその市がビックリするような素晴らしい表現だと思う。

委員T

- ・そういう意味では面白いかもしれない。

委員T(友森)

- ・今から10年、20年後を見据えた文とすれば、この締め括りは良いと思う。

会 長

- ・世界一を目指してそれを宣言し、それに向かって協力し努力していこうとする姿勢は必要だと思う。よって、是非“世界に誇れるまちをつくる”というフレーズを入れたい。
- ・また、“自らが輝き”というフレーズも、自助努力、自分達自らが世界一を目指すというのは他にはない。
- ・「教養を深め、自らが輝き、世界に誇れるまちをつくります」というのはどうでしょうか。

委員T(友森)

- ・“自らが輝き”というフレーズは、老若男女全てが輝くという共通したもので非常に良いと思う。

委員T

- ・一人ひとりが輝くという点では、全てを含んでいる。究極の目標という感じである。

会 長

- ・他にありませんか。それではこれに決定したいと思う。

(国際)と(伝統・文化・教育)をまとめて

教養を深め、自らが輝き、世界に誇れるまちをつくります。

を委員会案とした。

【前文の検討】

会 長

- ・前文の審議に入ります。第3回会議の資料1「前文(案)」では合計9案が出ているが、もう一度目を通していただき、その後にご意見をいただきたい。
- ・このフレーズを見ると2つの意味があると思う。最後は“～のためにこの憲章を定めます”という型をとり、最初に、周南市というのはどういうまちかという紹介をする部分と、どういうまちをつくりたいかを全般的に紹介するフレーズから成っている。その前の部分について、良いと思うものを抽出し、修正していくという方法もあると思うが、何かご意見はないでしょうか。

委員O

- ・各自の案をそれぞれ説明してもらい、或いは他の案が良いと思えば意見を出してもらおうのが良いと思う。

会 長

- ・それでは、各自の案の説明、或いは他案に対する意見を順番にお願いしたい。

委員Y

- ・私は 案ですが、これは“住んでよかった、住みよいまちづくり”を強調したもので、旧新南陽市の文が多く入っている。

委員F

- ・私は 案ですが、これは、前文は暮らしの中に根付かなければいけないと思うので人・まち・暮らしがいきいきと輝き、調和のとれたまちづくりを目指せば良いのではという意味合いのものである。
- ・前文はあまり長くない方が良いと思う。

委員N

- ・前文は必要ないと思い、出さなかった。他案では“山と海”が入っている 案が良いと思う。

副会長

- ・私は 案を出した。今まで、若い、子供、男性、女性という固定的な言葉は出さない方が良いという意見があったが、男女が共に力を合わせて何かをすることはとても良いことで、むしろ、周南市は男女が共に力を出し合って新しいまちづくりに意義があると思い、あえて“男女が共に輝き”を入れた。最後の部分に“この”を追加して、“この憲章を定めます”と訂正していただきたい。

委員T(友森)

- ・私は 案ですが、この案は、徳山・新南陽は産業が発達したまちで、熊毛・鹿野は自然があり、産業と自然、恵まれた地域でみんなが協力できれば良いというものがある。最後の部分を“めざして、この憲章をつくります”に訂正していただきたい。

委員T

- ・私は 案ですが、これは、短く基本的な部分だけを出して、覚えやすい文章にしたいということでまとめた。このタイトルそのものは総合計画に載っているタイトル

とほとんど一緒であり、これを前面に出してみたらという思いで考えた。他案としては、案が良いと思う。

委員O

- ・私は案を出した。この案は、歴史に残る合併、山口県最初の合併である“平成の大合併”という言葉を入れたら良いと思い、また、周南市がどういうまちであるかということのを他に発信してわかるようにということで考えた。

会 長

- ・全般的な意見を何かいただきたいと思う。

委員N

- ・前文は唱和しないのだろうか。

委員T

- ・通常は司会者が前文を読み上げて、本文を皆で唱和するスタイルが一般的である。

会 長

- ・色々見ても、あまり長い前文はないようである。

委員T

- ・本文のきっかけづくりが前文にあればいいと思う。

会 長

- ・いろいろホームページ等で見ると、まちの宣伝文句があって、それから市民憲章があるという型である。

委員T

- ・周南市民に訴えるものであるから、自分たちの目の前の財産を改めて言う必要はない気がする。むしろ、具体的に何を行動するかということその部分に入れば良いと思うので、あまり長過ぎるより、簡潔にこういう目的でという意味合いが良いと思う。

会 長

- ・前文は唱和しないけれども、前文で紹介をするという意味で、これに適した内容がいいと思う。

委員F

- ・最初に決めたことだが、本文に入る前に“わたくしたちは”を入れないといけない。それと、“わたくしたち”とは、わたくしたち市民が定めるのか、それとも、行政がやりなさいというのか、だれが宣言するのかを考えていないといけないと思う

会 長

- ・最初は“わたくしたちは”あるいは“わたくしたち周南市民は”で、最後は“この憲章を定めます”という型で、あまり長くない方がいいという意見です。
- ・他の意見はないでしょうか。それでは、まず投票を行い、1案を決定し、この案をもとに修正するという方向でいかがだろうか。

全 員

- ・了承

会 長

- ・1人3案まで投票できるということで行いましょう。

挙手による投票の結果

わたくしたち周南市民は、心豊かに快適で、安心して暮らせるまちをつくるため、この憲章を定めます。

を前文の基本案とした。

会 長

- ・案を基本案として審議を進めたい。この基本案を基に足りないものを入れるか、あるいは余分なものを削除し、修正していくことにしたい。何かご意見はないでしょうか。

委員 T

- ・この案はベースとしては良いのだが、反対できない文面というか、無難で面白味がない。もう少し周南市らしい言葉を入れたら良いと思う。

会 長

- ・全ての案の中から良いと思うフレーズを選んで入れ込んでいくというのはどうだろうか。

委員 T

- ・次回の会議までの宿題ということで、修正案を考えてもらい、次回の会議で出されたものを審議するというのでいかがだろうか。

会 長

- ・案は物足りないと思うので、たとえば、“ひとが輝き”“伸びてゆく”“誇りをもって”などのフレーズが欲しい気がする。案の“ひと輝き未来へ伸びゆく”というフレーズは良いと思う。それでは、案を基に良いと思うフレーズを入れ込んでいくということで、次回、もう一度皆さんの案を出していただきたいと思う。

【その他：今後のスケジュールについて】

事務局

- ・12月中に2回の会議を開催し、案を作っていただきたい。その案を1月15日号広報に掲載し、市民の皆さんから意見を求めたいと考えている。
- ・また、「市の木・花」については、11月中で意見募集を締め切るのので、その状況を踏まえて、検討をお願いしたいと考えている。

次回と次々回の会議日程を決めて閉会した。